

2025 年度 教育実践総合センター活動概要

1. 構成員

センター長（併任）

教 授 児玉 真樹子

センター担当教員

《学校教育相談実践部門》

教 授 谷口 弘一（併任）

准教授 深谷 達史（併任）

《教育実践研究開発部門》

准教授（実務家教員） 戸高 真也（併任）

准教授（実務家教員） 藤川 照彦（併任）

事務補佐員

竹ノ中亜由美

非常勤相談員

教育臨床相談 エリクソン ユキコ

センターの概要

二つの部門を設置し、学校や教育委員会等の教育・行政機関や地域と連携を図りながら次のような活動を行っている。

教育実践研究開発部門では、高い専門性と優れた指導力を持つ教員を養成するための教育事業や研究・カリキュラム開発を行うとともに、学校の実践研究に対するコンサルテーションも行っている。学校教育相談実践部門では、現在の学校教育が抱える問題を解決・予防するための研究や、相談・支援活動を行っている。平成 18 年度から学校心理教育相談室（にこにこルーム）を設置し、学習や生徒指導・研究相談にかかわる心理教育的支援、学校心理学に関する教育・研究を行うとともに、学校心理学に関する研修の機会を提供している。

2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

子どもの心と学び支援セミナー

①「令和の日本型教育に求められる教師の生徒指導力とは」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2025 年 5 月 17 日（土）

場所：広島大学東千田キャンパス

形態：対面・オンライン

講師：山崎茜（広島大学）

松本創（札幌市立小学校）

参加人数：56 名

②「UDL の視点で見る個別最適な学びと協同的な学び」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2025 年 7 月 12 日（土）

場所：広島大学東千田キャンパス

形態：対面・オンライン

講師：バーンズ 亀山静子（NY 州公認スクールサイコロジスト）

川俣智路（北海道教育大学）

参加人数：66 名

③「子どもの問題状況の背景を見立て適切な支援につなげる」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2025 年 9 月 20 日（土）

場所：広島大学東千田キャンパス SENDA LAB

形態：対面・オンライン

講師：津山裕美（下関市立大学）

米田茂（梅光学院大学）

参加人数：60 名

④「子どもや保護者の困り感に寄り添うかわりとは」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2025 年 11 月 22 日（土）

場所：広島大学東千田キャンパス

形態：対面・オンライン

講師：山崎茜（広島大学）

参加人数：50 名

⑤「すべての子どもたちに身につけさせたいコミュニケーションの力」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2026 年 1 月 24 日（土）

場所：広島大学東千田キャンパス

形態：対面・オンライン

講師：石本雄真（鳥取大学）

参加人数：63 名

⑥「支え合い協働しながら子どもが育つ集団づくり」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2026 年 3 月 14 日（土）

場所：広島大学東千田キャンパス

形態：対面・オンライン

講師：中林浩子（下関市立大学）

参加人数：51名

3. 研究活動状況

センタープロジェクト研究

①科学研究費助成事業挑戦的研究（萌芽）

「転移可能な実践的指導力を養う教職課程プログラムの実施と多面的評価」

②科学研究費助成事業基盤研究（B）

「学習方略の新たな指導枠組みと評価方法に基づく実験・実践的研究」

4. 教育・社会貢献事業

（1）にこにこルーム（学校心理教育支援室）

《学習相談》

にこにこルームの学習相談に参加した学生は78名。

①前期（2025年5月14日から2025年7月23日）

東広島市内の小中学校から3年生以上の児童生徒32名を対象に、5月14日から7月23日までの計10回、毎週水曜日17時から18時、または18時15分から19時15分までの60分、対面で認知カウンセリングを行った。終了後、毎回ケース検討会を行った。

②後期（2025年10月29日から2026年1月21日）

東広島市内の小学校から3年生以上の児童生徒38名（前期からの継続を含む）を対象に、10月29日から1月21日までの計10回、毎週水曜日17時から18時、または18時15分から19時15分までの60分、対面で認知カウンセリングを行った。終了後、毎回ケース検討会を行った。

③その他の活動

広島市の小学6年生約80名を対象に、2025年8月18日～22日の5日間、午後4時から7時までの時間帯に、算数、国語、外国語の学習法を学ぶ講座を実施した。

《学校臨床相談》

一年間を通じて臨床心理士と大学院生の学生支援員による学校臨床相談活動を実施した。1回の面接は50分で、原則10回～15回を上限とした回数限定でカウンセリングやソーシャル・スキル・トレーニング（以下SST）等を行

った。学生支援員が担当するケースの判別は臨床心理士が行い、インテーク面接の実施後、学生が児童生徒の面接を担当した。

①にこにこ広島ルーム（毎週土曜日）

広島大学東千田キャンパス内の相談室にて、毎週土曜日（10時～17時30分）に完全予約制で相談活動を行った。来談件数は3件で、延べ相談件数は26回。来談のケースは小学校1年生～5年生。不登校及び不登校傾向、学校不安、発達課題に関する子育て不安などの相談が中心であった。

②にこにこ東広島ルーム（毎週日曜日）

広島大学キャンパス内の相談室にて、毎週日曜日（10時～17時30分）に完全予約制で相談活動を行った。来談件数は7件で、延べ相談件数は56回。来談のケースは小学校1年生～5年生。不登校及び不登校傾向、発達障害、感情のコントロール、対人不安、子育て不安などに関する相談であった。また保護者面接と同時に大学院生の学生支援員が子どものカウンセリングを担当し、並行面接を実施するなど利用者のニーズに合わせた支援を実施した。今年度の学生支援員は4名であった。

③定期ケース検討会（木曜日18時～21時）

前期・後期共に定期ケース検討会を実施した。参加学生は事前登録した21名で、臨床心理士及び学生支援員の担当するケースの事例検討会を行った。また、学級経営、児童・生徒のアセスメント、カウンセリング基本技法、SST技法等の勉強会を実施した。（延べ23回）

④ボランティア実習

広島市内の母子自立支援施設および非営利団体での学習支援事業において学習支援ボランティア実習を対面またはオンラインで実施した。学生は実習後に毎回レポートを提出し、教員によるフィードバックを受けた。派遣した学生は5名（延べ29名）、支援受益者数は延べ35名であった。

⑤集団ソーシャル・スキル・トレーニング&学習カウンセリング実習

地域の児童・生徒を対象に2025年10月30日から2026年1月15日まで計5回、対面による集団SSTを行った。参加者は対人関係スキル向上に関心がある、もしくは苦手さを感じてい

る子どもで、基礎的な対人スキルのグループ(小学4～6年生8名)、アサーションなどより複雑な対人スキルに焦点をあてたグループ(小学4～6年生12名)に分かれ、集団SSTを学生支援員が担当し教員の指導のもと実施した。

(2) フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員18名から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織している。「地域教育実践Ⅰ・Ⅱ」「地域教育支援実習Ⅰ・Ⅱ」の授業として通年で開講した。2025年6月から12月にかけて年間6回の活動日を13時から17時の時間帯で行った(最終日のみ11時から17時の時間帯で行った)。75名の学生及び東広島市立小学校から募集した69名の児童が参加した。「ミラクルサーカスグループ」、「どきわく実験室グループ」の2グループに分かれ、それぞれ児童7～10名と学生6～7名の4班を編成し、計8班でグループ活動を行った。

また、1・2月には「探究×共生フレンドシップ」と題してサンスクエア東広島にて全3回のスピノフ活動を実施した。

(3) Vネットワーク(地域教育実践ボランティアネットワーク事業)

教職を目指す学生がボランティアとして豊富な社会的経験を積み、教師としての社会的視野や人間的感性、創造性、さらには実践的指導力を身につけることを支援する目的で開始され、教育実践研究開発部門の担当教員が対応している。主に学生から学校ボランティア希望の申し出により、担当教員が学生の希望する学校と調整し、事前指導後に派遣する。

今年度の派遣先は、中学校5件となった。

5. 研究紀要の刊行

- ・学校教育実践学研究(第32巻)の刊行